

糸魚川－静岡構造線活断層帯神城断層トレンチ掘削調査現場公開のご案内

信州大学や岡山大学、東京大学地震研などを中心としたグループでは、2014年地震の震源断層となった神城断層の活動履歴や断層構造の解明を目的としたトレンチ掘削調査を実施しています。このたび大町市青木湖南岸地域において、明瞭な断層による変形構造や活動履歴解明に資するデータが取得可能な断面を見出すことができました。調査は現在継続中ですが、トレンチ調査溝の一般公開を実施します。興味がありましたら直接お越しください。

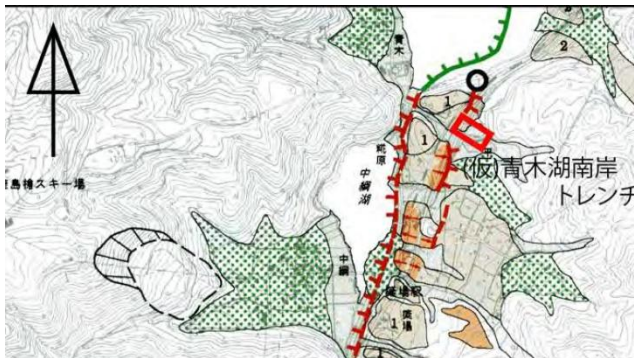
日時：2018年11月17日 13:00-15:00 一般公開

2018年11月18日 10:00-12:00 一般公開

場所：以下図を参照

連絡先：信州大学廣内研究室

[hirokuma の後にアットマーク shinshu-u. ac. jp](mailto:hirokuma@shinshu-u.ac.jp)（希望があればメールでご連絡ください）



国土地理院都市圏活断層図（大町）2018年版

に加筆

大図（大町市都市計画図）



トレンチ溝北面西側の写真。約2万年前の湖周辺の地層が大きく東へ傾く。中央の黒色層が約2万年前の年代を示す



トレンチ溝北面東側の写真。より新しい地層が大きく東へ傾き下がり、それを複数の低角逆断層が切断する。黒色層も変形に参加し、その上位の黒色層がこれらを覆う（写真ではわかりにくい）。傾斜不整合と断層の切り合いから過去約4700年以降に2-3回の断層活動を読み取ることができる（黒色層の基底が約4700年前）



トレンチ調査の全景（上記2枚の写真を含む）